2020
7.31
FRI

くまもとアートポリスプロジェクト

U-35 立田山憩の森・お祭り広場公衆トイレ 公開設計競技2020

審査員長｜伊東 豊雄（建築家、くまもとアートポリスコミッショナー）
審 査 員｜桂　英昭（建築家、くまもとアートポリスアドバイザー）
末廣 香織（建築家、くまもとアートポリスアドバイザー、九州大学准教授）
曽我部 昌史（建築家、くまもとアートポリスアドバイザー、神奈川大学教授）

35歳以下を対象とした公募型コンペを実施

熊本市の中心部から東北に位置する標高152mの立田山は、市街地に残された貴重な自然緑地。都市化の進展とともに行われる緑地の開発を防ぎ、県民の生活環境を保全するため、自然の森に復元し、憩いの場をつくることで生活環境保全林「立田山憩の森」として、多くの県民の健康づくりやふれあいの場として活用されてきた。今回の設計競技は、熊本市北区立田山憩の森・お祭り広場に、県が建設する公衆トイレの設計者を広く公募したもので、くまもとアートポリス115番目のプロジェクト事業として実施された。

35歳以下の若手技術者を対象に公開設計競技を行い、アートポリスプロジェクト事業として史上最多の279件もの応募が全国からあり、応募者、一般来場者が参加できる公開審査を開催する予定であったが、新型コロナウィルス感染症の感染拡大防止の観点から審査方法を変更して実施した。事前審査で10案を選定し、メールによる質疑応答を経て審査員のみのリモート形式による審査を行ったが、図面や書面だけの判断には限りがあるという意見があり、急遽3作品に絞りこみ、日を改めて応募者と審査員がリモートで直接質疑応答を行った。その結果、最優秀賞に『森と人の輪／曽根拓也＋坂本達典＋内村梓＋前原竹二』、優秀賞に『立田山と呼応する屋根／占部将吾＋佐藤元樹＋西島要』、佳作として8作品が選定された。講評で伊東審査員長は「審査員一同、応募者のフレッシュで熱いエネルギーを感じることができたのが一番の収穫」と述べた。

公開設計競技の概要

2020年 4月 6日 ｜ 応募要項発表
コロナ禍により提出物、審査方法を変更
2020年 6月22日 ｜ 応募締切
2020年 7月 8日 ｜ 事前審査結果の公表
2020年 7月31日 ｜ 最終審査結果の公表

応 募 資 格

応募締切時点で満 35 歳以下の方

事 業 概 要

建 設 地／ 熊本県熊本市北区乗越ヶ丘（立田山憩の森）
施設概要／ 公衆トイレ 木造平屋 延べ面積 50㎡以内

最優秀賞

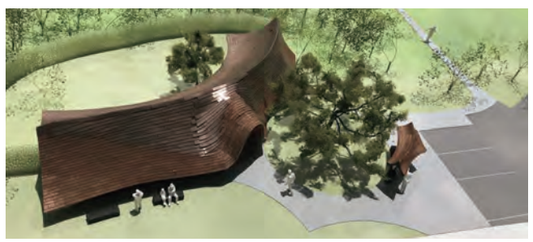
「森と人の輪」
曽根拓也＋坂本達典＋内村梓＋前原竹二

自然（広場・森）と人（散策・車からのルート）の接点となる位置に、小径の丸太材でレシプロカル架構の環状屋根を架け、トイレと共に憩いの場を配置する提案。小径の間伐材を活用することで、間伐材に付加価値を与える。

優秀賞

「立田山と呼応する屋根」
占部将吾＋佐藤元樹＋西島要

神社の唐破風を想起させる「檜皮葺」と「銅葺き」の大きな曲面屋根が特徴。日本の精神や伝統技術の魅力を伝える建築を目指す。トイレの中から立田山の自然豊かな風景を望むことができる空間構成。



佳　作

「共生の光」
佐河雄介＋辻拓也

CLTパネルを持ち送り構造により外側にずらし、カテナリー曲線で描く屋根を持つ自然と共生する建築。

「Birdhouse Toilet」
松田裕介

小さな建築をランドスケープの中に散りばめて配置し、新しい生活様式へ対応した建築のソーシャルディスタンスの提案。

「Leafy Roof Lavatory -安らぎの屋根が作るみんなの憩いの場-」 幾留温

木の葉のような形状のやわらかな曲線を描く屋根が、訪れた人々に優しい木陰を提供する憩いの場となる計画。

「『森林ミュージアム』のレストルーム」
葛島隆之

機能分散により使う人が選択できる様々なトイレを庭と一体化させて配置させた美術館の展示室のような提案。

「マチ山の教室　マチの中にある山の中の学びの拠点」
菊井悠央＋本山真一朗

地域活動の情報と学びの拠点となるトイレの提案。
既存トイレを生かし、みんなで考え、みんなでつくる計画。

「木とコンクリートとガラスの積層フォリー」
山田健太朗

集塊岩が積層した立田山に、集成材・CLT、コンクリートブロック、ガラスブロックなど異なる素材を積層する建築。

「立田山の訪礼堂」
岩崎裕樹

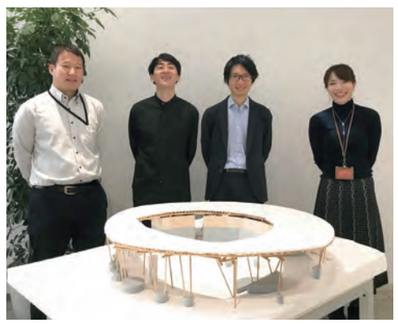
用を足すこと自体が、教会や礼拝堂での祈りのように象徴的な体験となるような訪礼堂（トイレット）の提案。

「PRIMITIVE HUT　憩いの森の憩いの場」
太田裕通＋北村拓也

森と広場に抜けるようなヴォイドを穿ち、光・風の通り道としながら、風景との出会いを創出する建築。

受賞者コメント
最優秀賞　森と人の輪 / 曽根拓也＋坂本達典＋内村梓＋前原竹二

「立田山の豊かな自然との調和」、「丸太の使用による林業活性化」、「衛生面の配慮」をコンセプトに据え、森と人が共生できる場所を作りたいと考えました。「丸太」による構造架構は、森の循環に寄与する1つの解決策になると考えています。公開された他の応募者の方々の貴重な視点や、審査員の方々に頂いたご意見を大切にし、立田山を訪れるみなさまに愛される施設を実現していきたいと考えています。



佳作も含めた10者の提案作品、
伐採ワークショップの概要は熊本県ホームページで公開しています。